

# 子どもと算数を創る

—問いがつながり、数学的活動の楽しさを実感できる授業づくり—

仲善

## 1 課題設定の理由

県の研究部提案のテーマを受けて、仲善支部のテーマも同様に「子どもと算数を創る—問いがつながり、数学的活動の楽しさを実感できる授業づくり—」とした。教師が単元観を明確にするとともに、子どもの問いをつなげ、教具や話し合う場、数学的活動を工夫することで、子どもたちが主体的に授業に参加し、数学的活動の楽しさを実感できる授業を目指した授業研究に取り組んでいる。

## 2 研究の仮説

- (1) 単元のゴールを明確にし、それをもとに子どもと一緒に学習計画を立てることで、主体的な学びを目指すことができるだろう。
- (2) グループで互いに自分の考えを表現し伝え合いながら問題解決をする場を設定することで、協働しながら数理を創造する面白さを実感することができるだろう。

## 3 研究の内容

- (1) 子どもの問いを大切にした単元構成や活動の工夫  
単元のゴールをもとに子どもと学習計画を立てたり、達成した課題から新たに問いを持たせるための発問を工夫したりすることで、子どもが主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 多様な考えを協働しながら吟味していくための手立て  
児童一人一人が言葉や図を用いて互いに意見を表出し合える場や、多様な考えを分類しながら吟味していく場を設けることで、協働しながら課題を解決していく楽しさや面白さを実感できるようにする。

## 4 研究の成果と課題

単元の導入で国旗を取り上げ、単元のゴールを国旗作りに位置づけたことで、児童の中から学習したいことを引き出し、児童とともに学習計画を立てることができた。さらに、毎時間ゴールと計画を確認することで、子どもは学習していることの必要性を感じながら学習を進めることができた。また、弁別した形の中のどちらでもない形から新たな問いを引き出し、三角形や四角形に直していく活動を設定することで、本時の学習課題に主体性をもって取り組むことができていた。

一方で、子どもと学習計画を立てる際には、単元のねらいと関係のない問いが提案されたり、単元で押さえるべき問いが子ども主体では十分に出せなかったりした。身に付けさせたい資質・能力に沿った問いを促せるような工夫や見直しができるようにしたい。また、交流の場では簡単なキーワードの羅列にならないよう、児童がどこを見て思考しているのか説明する活動や、それが本当にあっているのか確かめる活動を設定し、考えをより吟味できるように工夫する必要がある。多様な求め方を知る、できた子が困っている子に説明する、弁別や修正があっているかを確認するなど、目的を明確化することで、さらに全員の理解が深まるようにしていくことも課題である。